

第9回

[日 時] 平成26年1月25日（土）18:30 - 20:30

[テーマ] 「日本の伝統文化 - 茅葺き屋根 -」

[講師] 有限会社熊谷産業代表取締役 熊谷 秋雄 氏 , 書家 竹嶋大貴 氏

[使用したテキスト]

- ・『耕人』H25_9.pdf （塾長から塾生へのメッセージ：第9号）

[概要]

18:30 開会の挨拶（木村塾長）

「大寒が過ぎました。毎日の温度差があり、まだまだ寒い日が続きますが、もうすぐ「立春」ということで、少しずつ春に近付いています。」という挨拶から始まりました。

その後、松井秀喜選手の母校である石川県星陵高等学校の野球部のロッカーに貼ってある「心が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる。」という言葉を紹介。この中で一番大切なのは、「行動が変わるくらい、自分の志を決意に変えていくことである。」と話しました。

18:35 講話（有限会社熊谷産業代表取締役 熊谷秋雄氏）

【指導員による講師紹介】

熊谷秋雄氏は、日本の伝統文化の一つである『茅葺き屋根』を手掛ける熊谷産業の代表取締役であることを紹介。日本各地の著名な神社や仏閣をはじめ、全国に残る古民家の屋根をふく作業を行っていること、雄勝の『スレート』を用いて東京駅の屋根を手掛けたことなどが紹介されました。また、日本の伝統文化に携わるだけでなく、世界とつながる活動も行うほどの国際派であり、仕事だけでなく友人としても世界の人たちとのかかわりが多いことも紹介されました。

【活動内容の確認】

今までの講義形式での講話とは異なり、2名の塾生が司会者となり、インタビュー形式で実施しました。

（司会）初めに、日本の伝統文化の一つである『茅葺き屋根』について教えていただきたいと思えます。

（講師）「茅」という植物名はなく、ヨシやススキ、稲わらなどの植物が屋根に使用されると「茅」と呼ばれます。ヨシという植物は一年で2?3m伸びるほど生育が早く、水を浄化する作用もある優れた植物の一つなのです。そのヨシが北上川にはたくさん生えており、それを刈り取って茅葺き屋根を施工しているのです。環境を考えた作業を行っていると言えます。また、茅葺きは日本の伝統文化であると思わ

れがちですが、世界中には茅葺きを利用した建物などが実際にあるのです。（映像資料をもとに説明）



（司会）茅葺き屋根を手掛けることになったきっかけについて教えてください。

（講師）大学卒業後、青年海外協力隊としてフィリピンに行きました。そこで『棚田』や『茅葺き建築』が多いことに気づき、実家の稼業（茅葺き屋根の施工）に興味をもち始めました。帰国後、北上町に戻ってみると、北上川のヨシ原が全然刈り取られてなくて大変荒れており、昔のような状態ではありませんでした。何とかこのヨシ原を元の姿に戻したいと思い、茅葺き屋根を手掛けることにしました。

（司会）現在、茅葺き屋根を手掛けている場所などについて教えてください。

（講師）旧河南町前谷地にあり、国の名勝にも指定された『齋藤氏庭園』の建物を最近まで手掛けました。現在は、東京や栃木の宇都宮で作業を行っています。また、近々、『国際茅葺き会議』というものが南アフリカのケープタウンであり、それに参加する日本人（5名）の一人として、約一週間現地に行く予定です。日本各地で作業を行いながら、海外での活動にも携わっているのが現状です。

（司会）ヨーロッパの国々とのかかわりも多いようですが、なぜ、ヨーロッパと茅葺きが関係しているのでしょうか。

（講師）元々、ヨーロッパにもヨシが多く生えている土地があり、そのヨシを使った建物など造る文化がありました。例えば、オランダには風車の世界遺産がありますが、それも茅葺きで出来ています。また、消防署や住宅の壁や屋根も茅葺きで施工されています。デンマークの島には、海藻を使用した茅葺き屋根もあります。南アフリカの国際空港の屋根なども茅葺きで施工されているのです。つまり、世界の至る所で茅葺きが使われています。しかし日本では、公共施設に燃えるものを使用してはいけないと

いうことになっており、「景観にやさしく、きれいなものをどのように作るか」という発想がなくなってしまいました。それは、人材育成にも関係していると思います。新たな発想をさせないようにしている現状が、若い世代の育成に良くないのではないかと考えています。



(司会) 日本では茅葺きを町並みに使うということは少ないですからね。職人さんの数というのはどうなのでしょう。

(講師) 日本では職人の数は減っており、新たに職人を育てることもなかなか難しいです。50棟くらいを手掛けるのが限度です。しかしヨーロッパの国々には800人くらいの職人がいて、年間2000-3000棟くらいの新築の茅葺きが建っています。

(塾長) 震災後にデンマークへ行ったとき、茅葺き屋根の家があって驚きました。しかも、近代的な建物に合っていました。私が一番心配なことは、日本は外国から少しでも良いものが入ってくると、一斉にそちらの方向に進んでしまいます。もちろん、近代建築を否定するつもりはありませんが、日本の伝統文化を残すシステムはできないだろうかと考えています。日本人の中に「良いものを残す」という心を育てていかないと、日本の素晴らしい伝統文化がなくなってしまうのではないかと心配です。



(講師) 私もいろいろ考えましたが、日本の伝統文化を一つの産業にしていかないと、これから先残らないのではないかと思います。伝統文化を保護することも必要ですが、保護するだけでなく、自由に活用できるように発想を変えていかないと、もう残らないのではないかと思います。伝統文化を守るシステムは必要ですが、どういふもので次の世代が興味をもち、茅葺きなどの世界に入ってくるかなども考えています。物を作るということは楽しいです。その物作りの楽しさややりがいというものを広めたり、日本人の価値観を変えたりしていけないのではないかと思います。

(司会) ヨシは、茅葺き以外にも使われていることはありますか。

(講師) 山形のさくらんぼは、一つ一つの手で受粉するのではなく、「マメコバチ」というハチの力を借りて受粉しています。そのマメコバチが巣を作るのにヨシが使用されています。また、建物の屋根だけでなく、壁もヨシでふくことがあり、実際に熊谷産業の事務所を行いました。ヨシはとても断熱効果がある素材なので、温暖化対策の一つになるのではないかと考えています。



(司会) 現在、思うことや大切にしていることがあれば教えてください。

(講師) 石巻にある素材を使って、何かに役立てたいと考えています。「これは草だ。これは石だ。」と決めつけるのではなく、視点を変えて何かに利用できないかと考えていきたいです。実際に、日本の至る所で石巻の『石』が使われているのです。なので、自分たちの故郷が持っている素材を今後も生かしていきたいです。

19:20 工作・書道体験 (書家 竹嶋大貴氏)

福井県を拠点に書の活動を行っており、現在は熊谷社長の補佐もしている書家の竹嶋大貴氏のご指導をいただき、ヨシを使って筆を作り、ヨシを漉いた和紙に、好きな文字や自分の気持ちを書いてみる体験を行いました。



まず、ヨシを使った筆作りに一人一人が取り組みました。ヨシの穂を束ねて竹の筒に挿し込み、はさみを使ってヨシの穂を適当な長さに整えました。あまり切らずに長い穂のままで仕上げたり、扱いやすいように短く切ったりするなど、オリジナルの筆を作りました。



次に、半紙に試し書きを行いました。いつも使っている筆とは異なり、思うように書けないことに悪戦苦闘しながらも、「自分が大切にしていること」や「本日の講話で感じたこと」などを文字や言葉で表していました。

いよいよ、ヨシを漉いた和紙に清書することになりました。思いっきりよく書き出す子、じっくりと考えてから書き始めた子、互いに相談しながら書き方を考える子など、取り組む塾生の姿は様々でした。

それぞれの作品が出来上がると、上手に書けているところを褒め合ったり、書いてみての感想を伝え合ったりと、和気藹々とした雰囲気の中で作品を見合っていました。塾生だけでなく、保護者の方々も体験され、親子でお互いの作品を見せ合う光景は、とても微笑ましいものでした。



体験活動後には、全体の場で自分の作品とその言葉や文字を選んだ理由を発表し合いました。

(塾生) 部活動と関連させ、チームプレーの大切さをイメージして「輪」という文字にしました。

(塾生) 自分の名前にある「花」という字が好きで書きました。すると、母も同じ字を書いていることに驚きました。



最後に、本日の耕人塾を通して感じたことを2名の塾生と木村塾長からありました。

(塾生) 自分は一つの考えをもってしまうと、他のことが考えられなくなります。新しいことも想像できないことが多いです。しかし、本日の講話を聞いて、身近なものも様々なことに活用できると分かったので、今後は視点を変えられるようにしていきます。

(塾生) ヨシを使った茅葺きは、日本独特のものかと思っていましたが、外国にもある文化の一つだと知って驚きました。

(塾長) 人は手に入りやすいものを身の回りに数多く置いて満足してしまいがちである。そうではなく、ものを見る目を養い、少なくともいいから本物を見極めて身の回りに置く生活スタイルに変えられないかと感じました。

- 連絡 -

第9回の耕人塾に講師として来ていただいた竹嶋大貴氏の個展が、3月から北上町の追分温泉で開催されます。そこに、今回の耕人塾で塾生が書いた作品も一緒に展示してもらえることになりました。塾生の作品は一足先に展示されていますので、是非、ご覧ください。



メニュー

ホーム	▼
耕人塾の活動	▼
令和2年度の活動	>
令和元年度の活動	>
平成30年度の活動	>
平成29年度の活動	>
平成28年度の活動	>
平成27年度の活動	>
平成26年度の活動	>
平成25年度の活動	▼
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	

第8回
第9回

第10回

第11回

修了式

平成24年度の活動

報道・受賞